

第65回日本小児保健協会学術集会 シンポジウム1

発達障害の早期発見から支援への新たな可能性

自閉症スペクトラムの早期支援としての JASPER プログラム

浜田 恵 (名古屋学芸大学ヒューマンケア学部)

JASPERとは、Joint Attention, Symbolic Play, Engagement and Regulationの略称であり、University of California, Los Angeles (カリフォルニア大学ロサンゼルス校)の自閉症研究・臨床の第一人者、Connie Kasari教授らによって開発された、自閉症スペクトラムの中核的な困難である対人コミュニケーションへの早期支援技法である。その名称が示す通り、共同注意 (Joint Attention)、象徴遊び (Symbolic Play)、関わり合い (Engagement)、感情調整 (Regulation)に働きかける。遊びを通して他者と物事を共有する力に働きかけ、対人関係における自発的な関わり合いを促進させることを狙いとしている。大学(研究)における個別のセラピーに加え、幼稚園における教師による実施、家庭における保護者による実施の取り組みもなされており、その効果が実証されている支援技法である。

共同注意：共同注意 (Joint Attention)とは、指さしや視線などの身振りを使って、相手と同じものを見る(共有する)ことをいう。1歳前後から子どもは、他者の注意がどこに向かっているのか、他者の視線や指さしの方向を探そうとする動きがみられる。同時に、自分が興味を持っているものを身振り(指さしなど)を用いて、大人と共有しようとする動きも出てくる。こうして、1歳半頃までには共同注意の発達がみられ、さらに対象物の共有をしながら大人が言葉を発する(「ワンワン」、「ブーブーだよ」など)ことで、コミュニケーションの手段を獲得していく。ASD (Autism Spectrum Disorder)のある子どもは他者と同じものを見る力が弱い。JASPERでは子どもが共同注意をどの程度行うのかということのアセスメント(後述)しつつ、共同の関わり合い (Joint Engagement)が

できるように支援していく。

要求行動：共同注意と似た動作がみられるが、区別する必要があるのが要求行動である。例えば、高い所にあるものを取ってほしい時にも子どもは指さしでそのことを表現する。しかし、それは他者と自分の関心を共有するための行動ではないため、区別する必要がある。ただし、ASDのある幼児は要求を適切に表現するというのも難しいことが少なくない。

遊び：JASPERでは、遊びを4つの大きな段階として分けて捉えている(図1)。大きくは機能的な遊びと象徴的な遊びに分かれ、機能的な遊びが単純遊び・組み合わせ遊び・前象徴遊びに分かれている。それぞれの遊びはさらに3~5つに分類することができる。それぞれの子どもの遊びの段階に合ったおもちゃに加え、子どもの遊びのレベルを上げるためのおもちゃ、子どもが活動に乗れず混乱した時のためのレベルを下げたおもちゃを準備し、子どもが自発的におもちゃで遊べるように展開する。

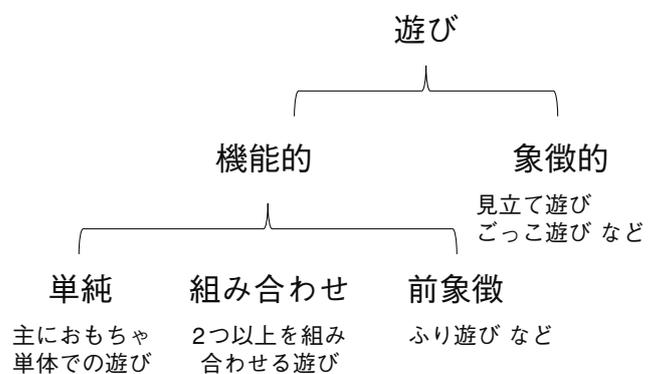


図1 遊びの段階

I. ASD 支援の課題と米国における JASPER の効果

ASD 児のいる家族では、服薬治療やスキルトレーニングのために通院したりセラピーに通ったりすることによって、経済的・時間的な負担がかかることが指摘されている¹⁾。保護者への経済的支援はその後のストレスを予測するという報告もある²⁾。家庭の経済状況や人種によって、公的サービスの利用機会が減少し、子どもの ASD の特性がより深刻であるという指摘もある³⁾。日本においては、幼児期の ASD 児の支援について、乳幼児健診後にフォローアップがなされる場合でも公的機関で平日に行われることがほとんどで、保護者の就労の困難が指摘されている⁴⁾。したがって、通院・通所といった医療モデルに基づく限定的な支援ではなく、地域生活の中で支援を実践できることが必要と考えられる。

先述の通り、JASPER はその効果が RCT (Randomized Control Trial: ランダム化比較試験) によって示されている。特に発語がほとんどない ASD 幼児に対する効果が示されており、発語が10語以下の3～5歳の ASD 児15名に対する10週間(週2回)の介入では、自発的な遊びの多様性が増加、教室での活動不参加の時間が減少、要求行動のジェスチャーの増加という変化が示された⁵⁾。また、保護者による介入の効果を見た研究では、JASPER 実施の指導を受けた保護者は、子どもの行動に対する反応が増加した⁶⁾。さらに、活用できる資源や収入の少ない家庭の ASD 児の保護者に対して、JASPER 介入の支援を行った群と教育のみを行った群の比較では、子どもの関わり合いの時間が介入支援群の方が教育群よりも増加し、その効果は3か月後のフォローアップ時点でも継続したことが示された⁷⁾。保護者だけでなく、教員による実施も効果が検証されている。アシスタント教員の介入を遠隔的にサポートして JASPER の効果を見た研究では、介入群は統制群と比較して自発的な共同注意や要求行動が増加したことが示された⁸⁾。

以上のように、JASPER は大学の研究室や専門機関といった場所に子どもが定期的に通ってセラピーを受けるといったモデルだけでなく、地域における実施でも効果が実証されている数少ない支援技法といえる。

II. 日本への導入の試み

JASPER は2015年頃から日本に導入が試みられて

いる。日本における JASPER の取り組みや紹介については、黒田⁹⁾の報告も参照されたい。

1. 導入の経緯

JASPER は、2015年に辻井正次教授(中京大学)と黒田美保教授(名古屋学芸大学)が UCLA の Kasari 教授のもとを訪ねてその有効性を確認した後、黒田教授と筆者で UCLA において3週間の研修を受け、2016年度から日本での取り組みを開始した。愛知県某市の市全体の取り組みとして、公立保育園と子育て支援センター、発達支援センターでの取り組みを保育士とともにやっている。また、年に1回、Kasari 教授の研究室から JASPER トレーナーを招き、愛知県や東京都での研修会やワークショップおよび実践トレーニングを行っている。

2. 発達支援センターにおける実践

筆者などの臨床心理士とセンターの保育士が協同して、対象児の共同注意・要求行動を引き出すことや遊びのレベルを確認しながら実践にあたっている。JASPER はメインの介入者と、介入中にそのサポートを行う者という役割分担をすることができるため、それぞれの役割の視点から介入の振り返り・共有をしている。また、JASPER の仕組みを理解する保育士スタッフが増えたため、同時並行で保護者に状況を説明したり家での取り組みを促したりすることができることも、介入と日常生活をつなぐポイントとなっている。

3. 保育園における実践

保育士(担任保育士や加配保育士)をメインの介入者として設定し、日常の保育の中で15～20分程度個別の取り出しによる関わりを行っている(場所の設定を図2に示す)。事前に、JASPER で行う介入の内容や見方のポイントなどを保育士に説明したり、共同注意と遊びに特化して作成した「実施の手引き」を用いたりすることで、何を行うべきか明確にし、取り組みやすくしている。また、個室などの空間はないものの、パーテーションや机、椅子を用いて、子どもがどこで何をすれば良いのか、わかりやすくしている。これも JASPER で用いられる方略の一つ、「環境設定」である。日常を過ごす保育の中で保育士が実践するため、JASPER 介入以外の保育の場でも共同注意や遊びの

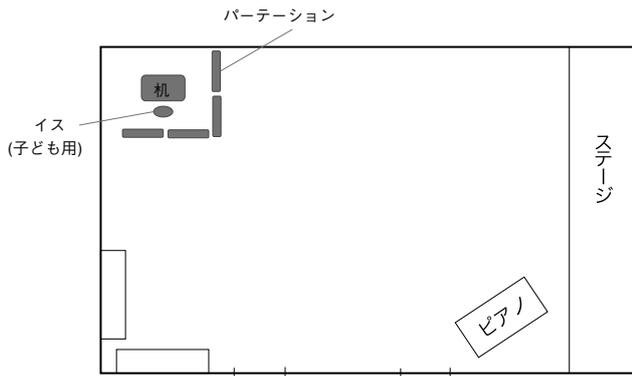


図2 セッション実施時のセッティング(保育園遊戯室)

レベルなどを保育士同士が把握しやすく、保育の現場で気になる子どもを捉える際の共通言語となり得るといえる。

Ⅲ. アセスメント技法 SPACE

JASPERに取り組む前に、対象となる幼児が共同注意・要求行動・遊びに関して、どのようなことができるのか、アセスメントをする必要がある。そのために用いられているのがSPACE (Short Play And Communication Evaluation)¹⁰⁾である。これは、共同注意・要求行動・遊びにおいて、十分できるスキルと現れ始めたばかりのスキルを理解し、その後の子どもの関わりにおいて目標を定めるためのアセスメントである。20分程度で実施することができる。実施の概要とそれぞれのねらいを表に示す。概要や事例については、浜田¹¹⁾の報告も参照されたい。SPACEは医療機関等の専門機関で心理士等が時間をかけて実施するだけでなく、保育士など日常的に子どもに関わる支援者が行い、すぐに子どもの現在の状態を把握できるように作られているところがこれまでのアセスメントと異なるところだと考えられる。現在、保育園における実践が積み重ねられているところである。

Ⅳ. 実践における保育士の気づきや変化

JASPERという個別の介入やその視点を保育士と共有する中で、保育士からは子どもの新たな気づきが得られたという声が聞かれるようになった。JASPERのセッション内はもちろん、日常の保育の中でも保育士が子どもの共同注意や他者との関わり合い、遊びのレベルについて気づき、報告がなされるようになったのである。

「ジャスパーの時ほどではないが、誕生会、お店屋さん、

表 SPACEで用いるおもちゃとチェックする内容

・おもちゃセット1 (型はめパズル, トラック, 積木)
どのような遊びを示すか (主に単純遊び・組み合わせ遊び)
どのような共有/要求のための行動を示すか
・おもちゃセット2 (ティーセット, ドールハウスセット)
どのような遊びを示すか (主に前象徴遊び・象徴遊び)
どのような共有/要求のための行動を示すか
・シャボン玉/風船
共有のための行動 (シャボン玉や風船と一緒に楽しむ)
がみられるかどうか
要求のための行動がみられるかどうか
・ボール
共有のための行動 (ボールのパス) がみられるかどうか
・指さし (おもちゃは使わない)
指さしへの反応がみられるかどうか
・ゼンマイおもちゃ
共有/要求のための行動がみられるかどうか

ブロックを新幹線に見立てるなど象徴遊びが増えた」

「室外へ出て行く時も、部屋にいる保育士の方を気にしたり、目線を合わせたりして、お互いを意識し合っている姿がある」

(2016年度報告会より)

また、集団では気づかれにくい、子どもの“できているところ”に保育士が気づくようになったことも増えた。それは、セッションで関わる保育士だけでなく、他のクラスの担任や加配保育士、管理職なども同様である。

こうした日々の気づきとそれに基づく保育士の関わりの変化の積み重ねによって、子どもの発達はより促進されていくことが期待される。また、JASPERは1対1の関わりだけでなく、他児も交えた“JASPER”という発展プログラムが準備されている。対象となる子どもに関わりやすい、遊びを伸ばしやすい他の子どもの力を借りて、子ども同士の関わりを促進することができる。対大人だけでなく、子ども同士の関わりや遊びの発展を目指すことは集団保育ならではの支援であり、子どもの生活や遊びが地域に根ざすという在り方を実現しやすくするだろう。

文 献

- 1) Lord C, Bishop SL. Autism spectrum disorders : diagnosis, prevalence, and services for children and families, Society for Research in Child Development 2010 ; 24 (2) : 1-21.
- 2) Falk NH, Norris K, Quinn MG. The factors predicting stress, anxiety and depression in the parents of children with autism. Journal of Autism and De-

- velopmental Disorders 2014 ; 44 (12) : 3185-3203.
- 3) Liptak GS, Benzoni LB, Mruzek DW, Nolan KW, Thingvoll MA, Wade CM, Fryer GE. Disparities in diagnosis and access to health services for children with autism : data from the National Survey of Children's Health, 2008.
 - 4) 特定非営利活動法人アスペ・エルデの会. 平成29年度厚生労働省障害者総合福祉推進事業 巡回支援専門員対象研修テキスト「効果的な巡回相談支援のための基本と実践」. 2018.
 - 5) Goods KS, Ishijima E, Chang YC, Kasari C. Pre-school based JASPER intervention in minimally verbal children with autism : pilot RCT. *Journal of Autism and Developmental Disorders* 2013 ; 43 (5) : 1050-1056.
 - 6) Shire SY, Chang YC, Shih W, Bracaglia S, Kodjoe M, Kasari C. Hybrid implementation model of community-partnered early intervention for toddlers with autism : a randomized trial. *Journal of Child Psychology and Psychiatry* 2017 ; 58 (5) : 612-622.
 - 7) Kasari C, Lawton K, Shih W, Barker TV, Landa R, Lord C, Orlich F, King B, Wetherby A, Senturk D. Caregiver-mediated intervention for low-resourced preschoolers with autism : An RCT. *Pediatrics* 2014 ; 134 (1) : e72-e79.
 - 8) Shire SY, Gulsrud A, Kasari C. Increasing responsive parent-child interactions and joint engagement : comparing the influence of parent-mediated intervention and parent psychoeducation. *Journal of Autism and Developmental Disorders* 2016 ; 46 (5) : 1737-1747.
 - 9) 黒田美保. 自閉スペクトラム症の早期支援の最前線 : ジャスパー・プログラムの紹介. *臨床心理学* 2016 ; 16 (2) : 151-155.
 - 10) Shire SY, Shih W, Chang YC, Kasari C. Short play and communication evaluation : teachers' assessment of core social communication and play skills with young children with autism. *Autism* 2018 ; 22 (3) : 299-310.
 - 11) 浜田 恵. 保育の場で見かける「気になる子」—「SPACE (短い遊びとコミュニケーションの評定)」を用いたアセスメント—. *アスペハート* 2017 ; 45 : 16-21.